

海外ファンドに対する研究者のニーズの可視化とURA支援業務の最適化

勝手に コアタイム!

9月15日(水) (大会2日目)
12:45-13:30
に説明します!
(Zoomに集合 →)



坂本 翼*、小山田 彩、桑田 治 (京都大学学術研究支援室)
foreigngrant@kura.kyoto-u.ac.jp

研究者の悩み

- ・どうやって海外ファンドを探せばよいのかわからない
- ・英語で書かれているので理解に時間がかかる
- ・自分が応募できるのかわからない
- ・若手・海外出身研究者を手厚く支援してほしい
- ・日本語が読めないで国内ファンドがわからない

URAの悩み

- ・海外ファンドに一定の需要があることはわかるものの、規模感や分野傾向が掴めず、まとまったエフォートを割きにくい
- ・世界のファンド情報を網羅することは非現実的
- ・安全輸出保障管理への目配りが難しい

- ・URAに求められる支援業務は大学毎に異なり、普遍的な回答はない
- ・実際の研究者のニーズに基づいた支援戦略の模索が今後ますます問われてゆく

海外ファンドデータベースを導入し支援戦略の検討を開始

研究者の悩みの解決策 (例)

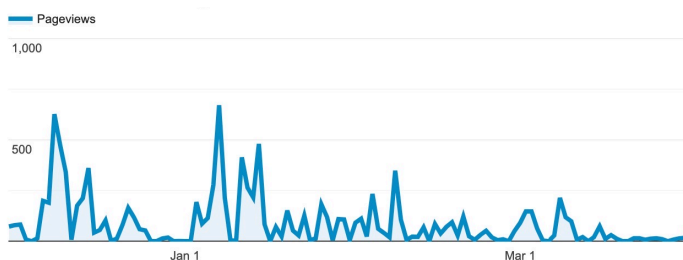
「どこで探せばよいのか…」 「自分が応募できるのかわかるか…」 「英語の資料を読み込む時間がない…」 「若手・海外出身研究者を支援してほしい…」 「日本語が読めないで国内ファンドがわからない…」

- 欧州、北米、オーストラリアを中心とするファンド情報を一つのデータベースで網羅
- 所属機関の研究者が応募できる公募情報をあらかじめ厳選 (研究者の労力を軽減)
- 日本の助成金情報も一部英語で網羅
- 全学ライセンス契約のため、教職員のみならず学生も利用可
- 見たいときに、見たい場所から、知りたい情報を探してもらう (URAのエフォートも軽減)

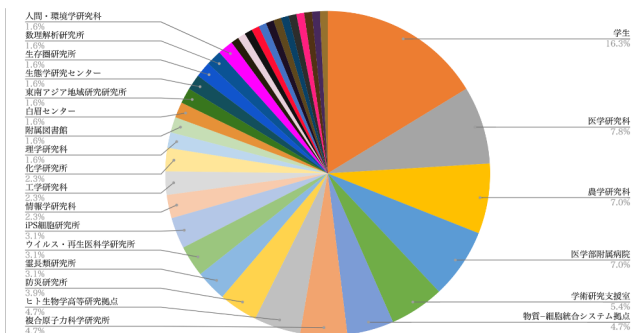
URAの悩みの解決策 (例)

「安全輸出保証管理が…」

- 懸念国や武器輸出国からの公募はあらかじめデータベースから除外



ニーズの可視化の例 (データベースのアクセス件数)



ニーズの可視化の例 (部局別の登録数)

まとめ

海外ファンドの申請を通じて生まれる知見(縁)は小さいが極めて多用かつ貴重

- 英語版申請書作成のコツ, 研究相手との出会い, 共同研究のシーズ発見 etc..
- しかし、その後のメンテナンスが無ければ即座に埋もれてゆく
- これらの知見をURAで集約し、国際連携や共同研究等の支援業務に活用
- URAとしてフォーカスすべき点を見極め、さらなる研究の加速化へ

